

森林政策学研究室 学士／修士論文作成要領

2010年10月4日作成

2012年7月5日修正

1. 学士／修士論文の提出物および提出期限

1-1. 提出物

学士・修士論文の最終的な提出物は次の3点：

- ①卒業／修士論文本文（製本版）
- ②引用文献（研究室所蔵の文献以外でダウンロードしたものや図書館等で取り寄せた場合は紙ベースのもの）
- ③利用ファイル等を保存した電磁的記録媒体（CDもしくはDVD）（注1）

注1）電磁記録媒体の作成上の留意点：

- ・ 媒体の選択（CDもしくはDVD）はファイルサイズに応じて各自判断
- ・ ファイル名：引用文献を除くすべてのファイル名の末尾に、原則として“名字2010”を追加（例：本文Chapter1佐藤2010.doc）
- ・ 引用文献を電子ファイルと紙ベースの両方で保有の場合は電子ファイルのみ提出
- ・ 下記のフォルダ構成とし、各フォルダ名は下記の【XXX】を使用

フォルダ1 【本文】：本文および図表の電子ファイル
フォルダ2 【引用文献】：引用文献（電子ファイル）
フォルダ3 【研究室発表】：研究室内の発表で用いた資料（発表日ごとにサブフォルダを作成して保存、サブフォルダ名は“西暦年（20を省略）月日（YYMMDD）”を使用）
フォルダ4 【学内発表会】：学内発表会の本番で使用したプレゼン資料および要旨
フォルダ5（該当者のみ）【学外発表】：使用したプレゼン資料および要旨ファイル（発表日ごとにサブフォルダを作成して保存、サブフォルダ名は“西暦年（20を省略）月日大会名”を使用）

1-2. 提出期限（下記日程は参考情報。本年度分は確定次第、周知）

修士課程

- 第一稿： 1月2週目から3週目
発表要旨： 1月最終月曜日 17：00までに部門事務室へ提出
（要旨提出日は年度によって異なる場合があるので確認のこと）
講座提出： 2月第三水曜日
最終締切： 2月末日

学士課程

- 第一稿： 1月2週目から3週目
発表要旨： 2月第1週月曜日 17：00までに部門事務室へ提出
（要旨提出日は年度によって異なる場合があるので確認のこと）
講座提出： 2月第三水曜日
最終締切： 2月末日

2. 本文の体裁

2-1. ページ設定等

- ・ 行数／文字数（用紙サイズ）：40行／40文字（A4サイズ）
- ・ 余白：上:25mm, 下:25mm, 左:20mm, 右:20mm, とじしろ:20mm
- ・ フォントサイズ：10.5ポイント
- ・ 原則、日本語フォント：MS明朝, 英数字フォント：Times New Roman

2-2. 本文

内容

- ・ 本文に最低限含まれるべき内容：①目次、②各章（背景、目的、解析手法・使用データ、結果、考察、結論、注および引用文献）、④謝辞、⑤引用文献の一覧（2-4. 引用文献参照）

数式等の表記

- ・ 数式の変数および植物の学名（種名）は斜体字（イタリック）で表記
- ・ 数字および度量衡等はアラビア数字を使用
- ・ 数字の一桁は全角、二桁以上は半角文字を使用
- ・ 数字が3桁を超える場合、三桁ごとにカンマを付与（例：1,000）
- ・ 度量衡は原則としてメートル法を採用（例：g,cm,%,m²,ha h）

引用文献の表記

- ・ 文献からの引用文（抜き出し）は原文通りとし、引用文に「」を付して必ず区別
文献の引用は、”(著者名,西暦)”もしくは”著者名(西暦)”と表記（例：文末の場合：・・・である（佐藤ら,2000）。文頭の場合：・・・は佐藤（2000）による整理が詳しい。）

2-3. 図表

- ・ 作成要領は別添1を参照
- ・ 図表は本文中に挿入（各ページで上端または下端に寄せる）
- ・ 図表の番号：各章ごとに”図-章番号.図番号 図表タイトル”と表示（例：1章の1番目の図（対象地）であれば、”図1-1 対象地”と記載）

2-4. 引用文献

- ・ 本文で引用した文献は、英語／日本語の関係なくアルファベット順で整理
- ・ 引用文献の形式
 - イ) 雑誌
佐藤花子（1996）「現代中国の林業問題」『林業経済研究』Vol.42(1)：18-22頁
Costanza, R., Graeme A., Deanna, N. (1997) The Value of the World's Ecosystem.Services and Natural Capital. Nature 387:253-260
 - ロ) 著書（単著）
鈴木一郎（1996）『日本林業の構造』評論社：152-154頁
Totman, C. (1989) The Green Archipelago: Forestry in Pre-industrial Japan. University of California Press, 297 pp.
 - ハ) 著書（共著）
岡本太郎（1983）「森林組合の現代的役割」井上和夫編著『現代日本の林業問題』林業出版：25頁
Hunter, I., Bird, P. (1997) Experience with Participatory Forest Management in The Tropics. In: Solberg, B., Miina, S. (Eds.), Conflict Management and Public Participation in Land Management. European Forest Institute, Joensuu: pp. 177-186.

以上

別添1

エクセルによる図・表の作成（平成21年12月16日、青木さん作成を参照）

図・表共通の留意点

- ・エクセル1シートにつき1つの図または表を作成
- ・図および表の単位と出典抜けのないように留意
 - 「出典」とは、他者がある資料を基に作成して、印刷物になっているものをそのまま引用する場合に用いる。
 - 「資料」とは、著者自らがある資料を基に作成したもの又は自分（あるいは共著者）が行政組織等に行って提供したもらった資料をそのまま掲載する場合に用いる。

表の場合

表1-19 山元立木価格の推移(都府県平均)
(単位：円/㎡)

	樹種別山元立木価格			価格推移 (1980=100)		
	スギ	ヒノキ	マツ	スギ	ヒノキ	マツ
1980年	22,707	42,947	11,162	100.0	100.0	100.0
1985年	15,156	30,991	7,920	66.7	72.2	71.0
1990年	14,595	33,607	7,528	64.3	78.3	67.4
1995年	11,730	27,607	5,966	51.7	64.3	53.4
2000年	7,794	19,297	4,168	34.3	44.9	37.3
2001年	7,047	18,659	3,869	31.0	43.4	34.7
2002年	5,332	15,571	3,168	23.5	36.3	28.4
2003年	4,801	14,291	2,821	21.1	33.3	25.3
2004年	4,407	13,924	2,401	19.4	32.4	21.5
2005年	3,628	11,988	2,037	16.0	27.9	18.2
2006年	3,332	11,024	1,862	14.7	25.7	16.7
2007年	3,369	10,508	1,728	14.8	24.5	15.5
2008年	3,164	9,432	1,638	13.9	22.0	14.7
2009年	2,548	7,850	1,466	11.2	18.3	13.1

資料：林野庁編「林業統計要覧」「森林・林業統計要覧」各年版より作成
(元資料は、(財)日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調査」)
注：利用材積1㎡当り価格(各年3月末現在)

表の留意点

- 1) フォント：MS明朝を使用（タイトル名、資料および注を除く）
- 2) タイトル名：表の上部にセンタリングで記載、フォントはMSゴシックを使用
- 3) 資料および注：表の下部に左寄せで記載、フォントはMSゴシックを使用
- 4) 単位：（単位： ）かっこ書きで右寄せ
- 4) 罫線：一番右端・左端の縦線は引かない、一番上端・下端の横線は引く

図の場合

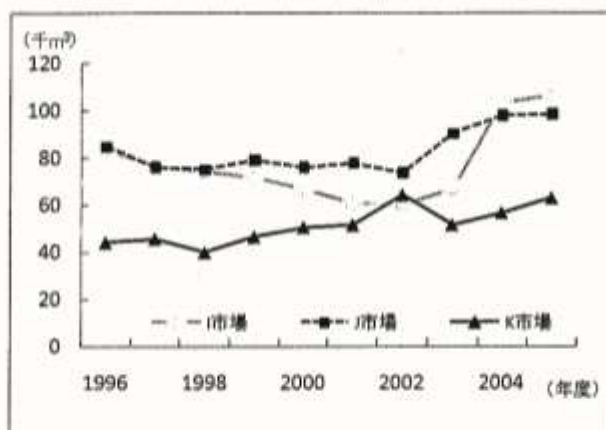


図1-4 都城地域原木市場の年間取扱量推移
資料：宮崎県環境森林部山村・木材振興課資料より作成

図の留意点

- 1) タイトル名：図の下部にセンタリングで記載、フォントはMSゴシックを使用
- 2) 資料および注：タイトル名の下部に左寄せで記載、フォントはMSゴシックを使用
- 3) 単位：（単位： ）かっこ書きで各軸に記載
- 4) カラー：原則として白黒ベースで作成